資料１

白馬村の概要

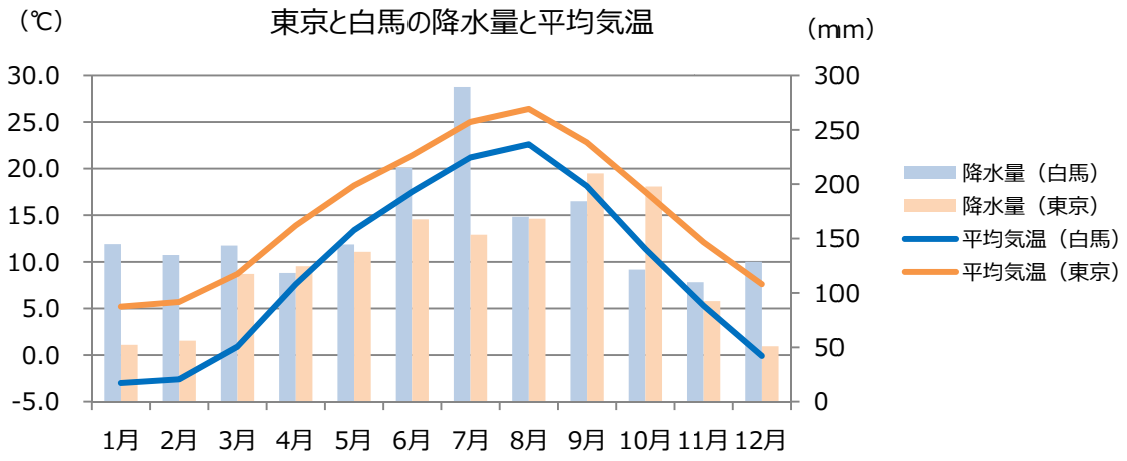
【１．　地勢】

長野県北西部、3,000m 級の北アルプスの麓に位置し、全体的に冷涼な気候であり、全域が特別豪雪地帯に指定されています。

村の中央を一級河川姫川が南から北に縦断しており、生活エリアである姫川沿いの盆地を中心として、西側には５つのスキー場等の観光施設や宿泊施設等が点在し、東側には主に中山間地の農村集落が点在しています。

面積：189.36ｋ㎡　（山林･山岳が約 90%）
標高：598m～2,932m　（白馬村役場：705m）





【２．歴史】

古代：白馬岳周辺の滑石や蛇紋岩を装飾品や石斧に加工

江戸：北アルプスでは国境警備・宗教登山・狩猟が行われる

明治：ウエストン氏、河野霊蔵氏ら登山
　　高山植物の宝庫として登山者が増加、山小屋を開設（明治 42 年）
　　スキー伝来（明治 45 年）

大正：鉄道開通、山岳スキーの普及

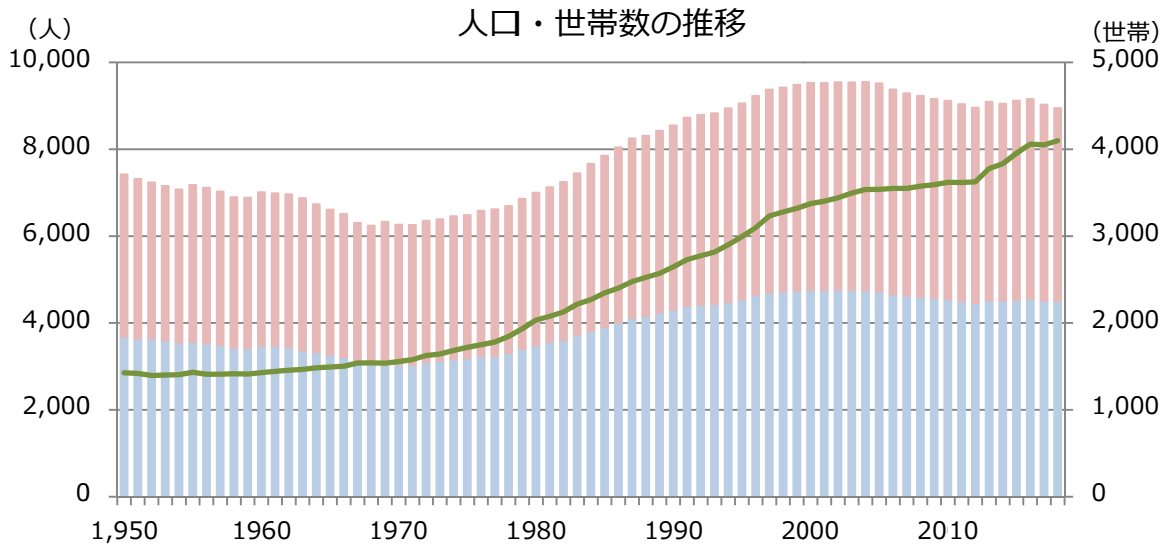
昭和：21 年　　細野集落の山岳ガイド宅で民宿発祥（昭和 21 年）
　　27 年　　スキー場リフト設置（以降、スキーの大衆化が進展）
　　31 年　　神城村と北城村が合併して白馬村が誕生
　　35 年頃　　神城の民宿で都会の学生を招く「学生村」が始まる
　　40 年代～　みそら野別荘地開村
　　50 年代～　避暑・スキーリゾート、ペンションブーム到来

平成：10 年　　長野オリンピック・パラリンピック開催
　　26 年　　神城断層地震発災（全半壊住家 77 棟、死亡者 0 人）

【３． 人口】

■人口推移

人口は 2004 年の約 9,500 人をピークに減少に転じましたが、近年は冬季になると 9,300 人、夏季は 8,800 人程度と季節による差は大きくなっているものの、全体的には横ばいの状態が続いています。

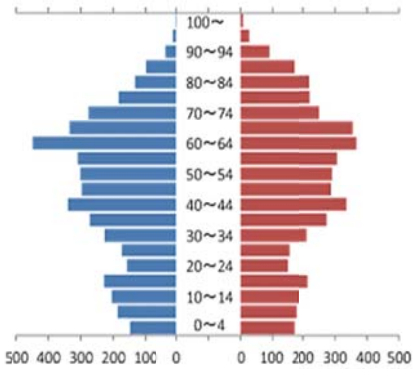


■人口の年齢構成と動態

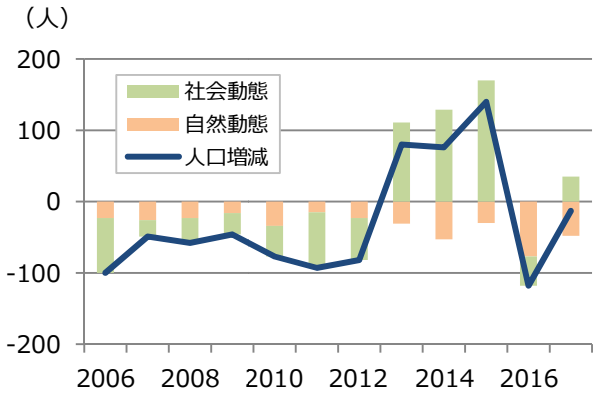
高齢化率は 29.7%で、長野県の平均値（31.4%）と比べて低くなっている。男女とも 60～64 歳の人口が多く、若年層は少ないため、今後数年で高齢化率は上昇していくことが予想されます。

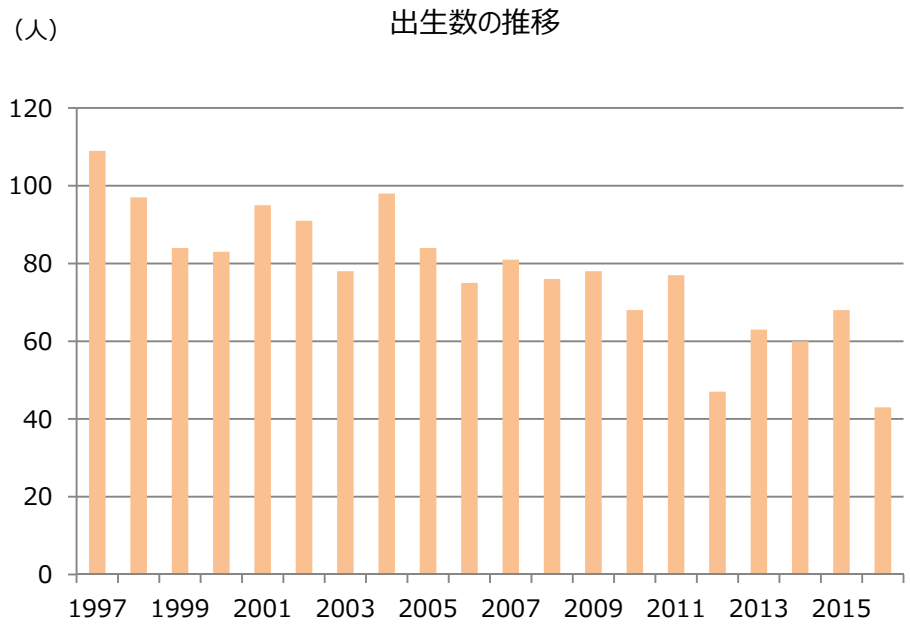
人口動態を見ると、自然動態では出生よりも死亡が多く毎年減少しているが、社会動態では近年転入超過となる年が多いため、人口減少が抑えられています。また、自然動態（出生・死亡）は 60～100 人程度であるのに対し、社会動態（転入出）は 800 人を超える規模となっており、住民の出入りが激しく流動的であると言えます。

人口ピラミッド



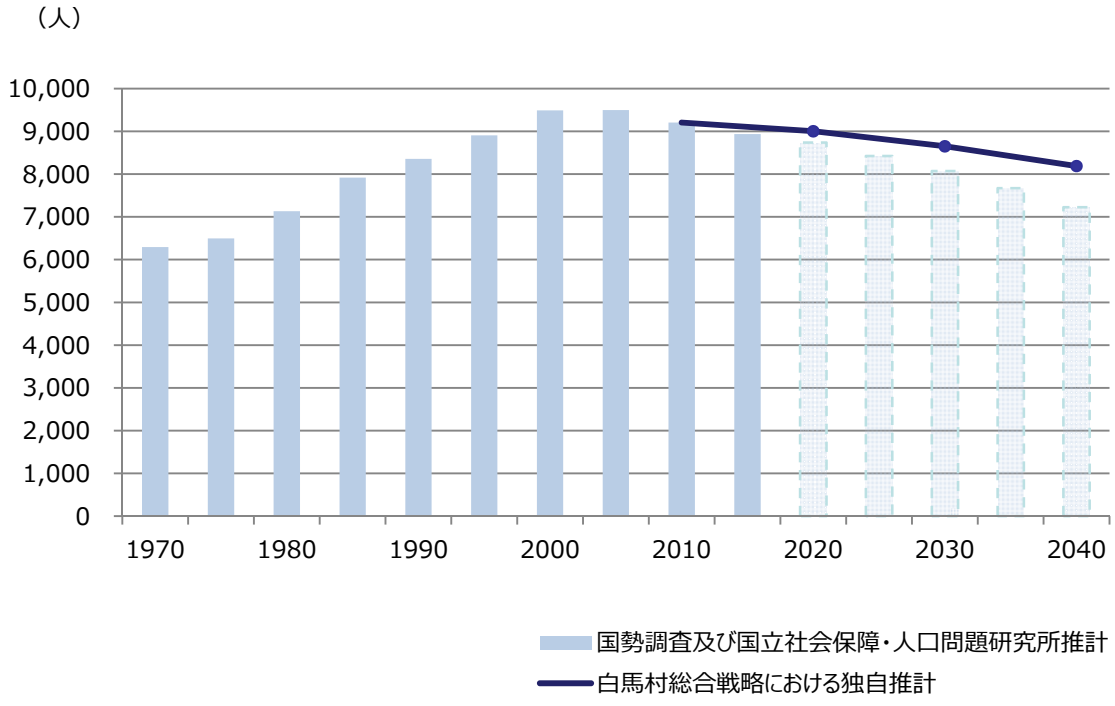
人口動態の推移





■人口の将来予測

2040 年には人口は約 7,200 人、高齢化率は 43.8%と予測されています。

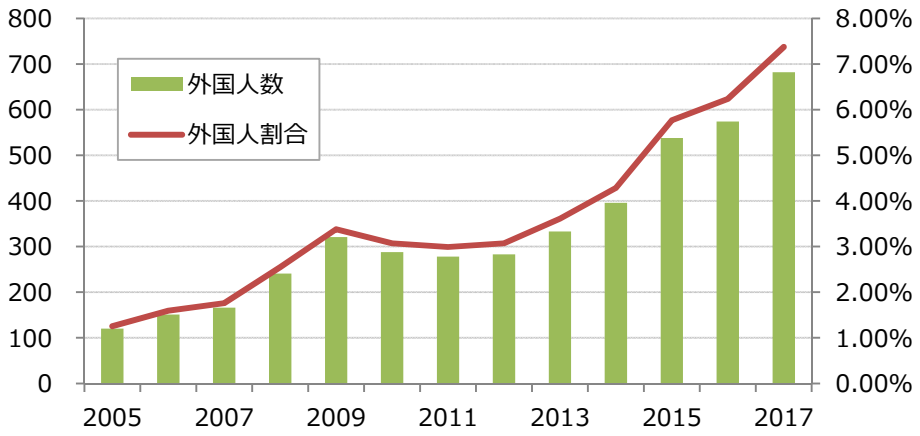


出典：国勢調査（S50～H22）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（H27～）より集計

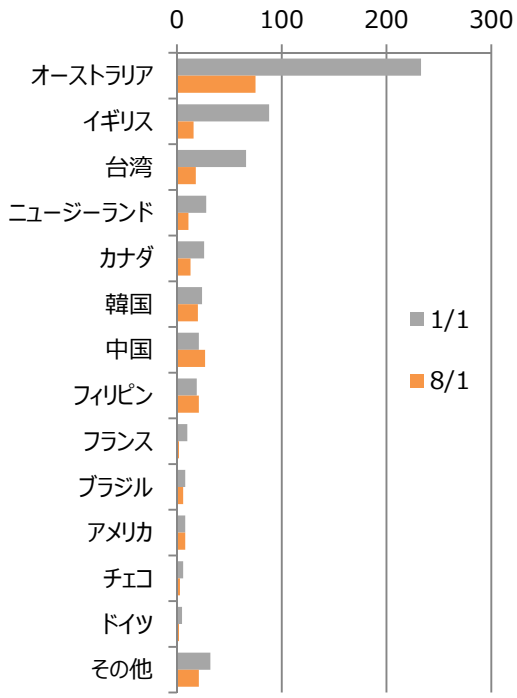
■外国人住民の増加

外国人観光客とともに定住する外国人も増加し、冬季には人口の約 7%に相当する 650 人以上が外国人住民という状況です。そのうち約半数が、一時的に観光産業に従事する短期滞在者で、残りの半数が年間を通して定住する住民となっています。

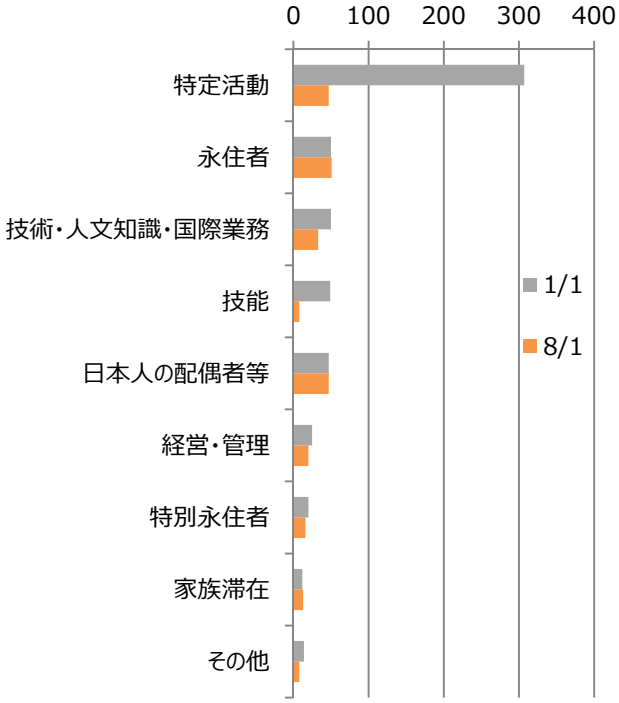
外国人住民の数と割合の推移



国籍別外国人住民数



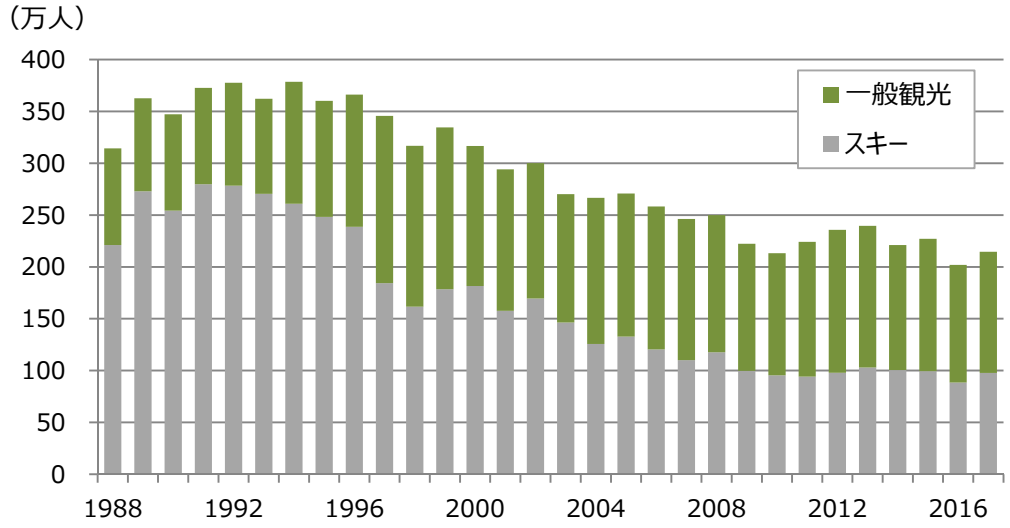
在留資格別外国人住民数



【４． 観光】

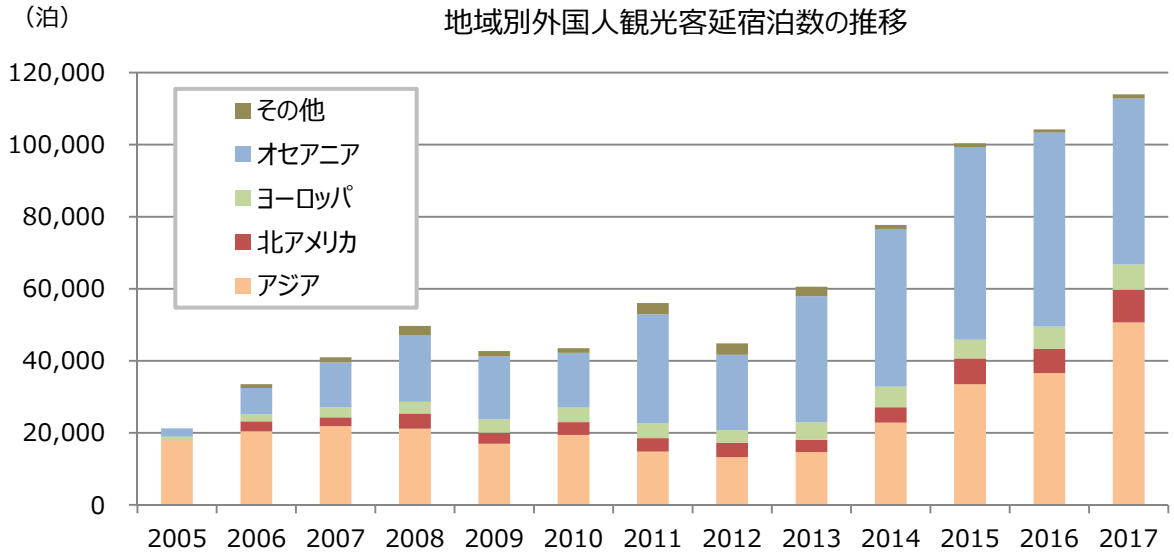
■観光客数の推移

長野オリンピック前には 300 万人弱のスキー客が訪れていましたが、現在は 100 万人前後で推移しています。オリンピック後にはスキー以外の一般観光にも力を入れていますが、ほぼ横ばいの状況となっています。



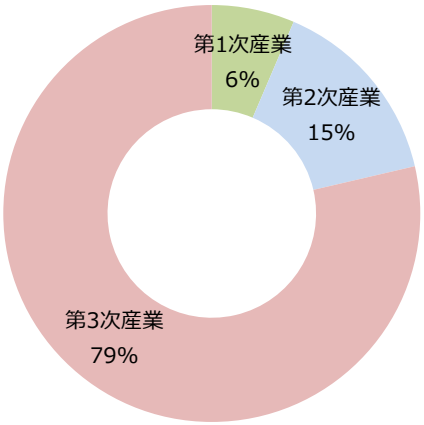
■白馬村の外国人述べ宿泊者数の推移

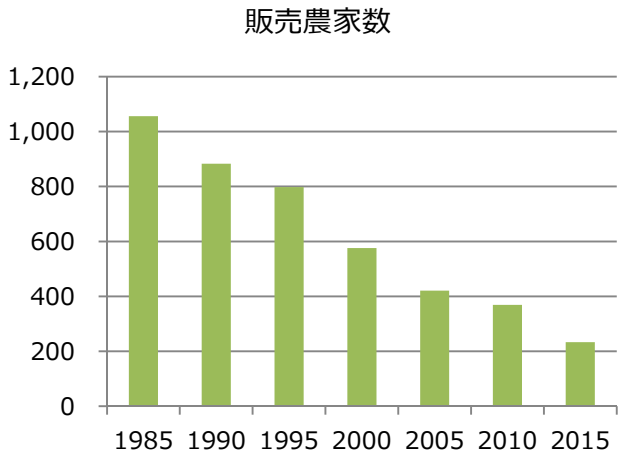
2005 年あたりからオーストラリアからの観光客が増加し、近年ではアジア（台湾・香港・韓国等）からの観光客が増加しています。



【５． 産業】

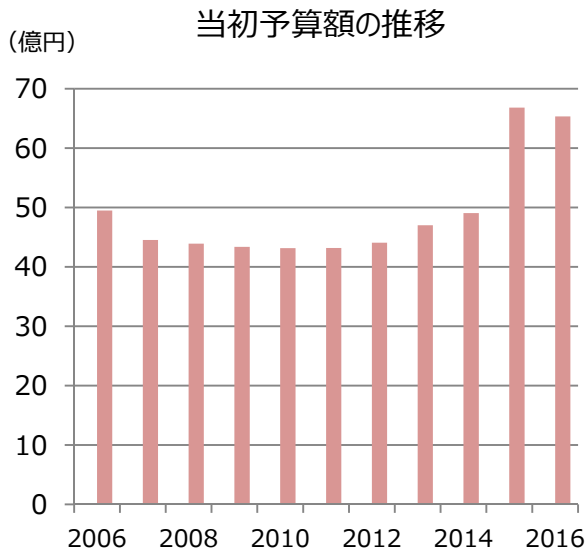
スキー・登山を中心とした観光産業が発展する以前は、水稲・養蚕・麻を中心とした純農村でしたが、スキーの大衆化と共に、民宿兼業農家が増加しました。現在では、多くの住民が観光関連の第３次産業に従事し、兼業農家は高齢化等により減少し、法人等担い手への集約化が図られています。

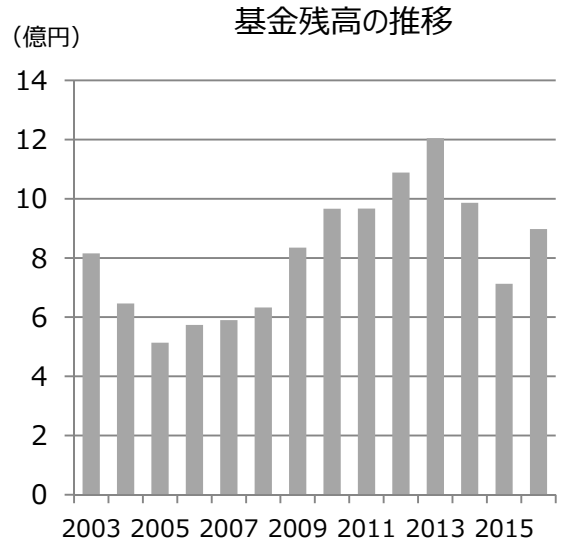




【６． 財政】

オリンピック施設の建設に伴う償還により財政的に厳しい状況が続いていました。
基金残高が増えてきたところで、2014 年の神城断層地震が発生し、基金を取り崩し復旧・復興事業を進めました。
近年の状況を見ると、税収は約 14 億円／年、ふるさと納税による寄附は約 2 億円／年となっています。
今後も財政的に厳しい状況が予想されることから、本年度より観光財源を確保するための検討会議を開催しています。





【７． 教育】



白馬南小学校
（全校生徒数：約 120 名）
裏山にＴバーリフトのあるゲレンデを有する。
信州型コミュニティスクール



白馬北小学校
（全校生徒数：約 320 名）
校庭にジャンプ台を有する。
信州型コミュニティスクール



白馬中学校
（全校生徒数：約 230 名）
村内唯一の中学校。
信州型コミュニティスクール



白馬高等学校
（全校生徒数：約 200 名）
国際観光科で生徒を全国募集
村が公営塾・教育寮を運営
文科省指定コミュニティスクール

【８． その他の地域資源】



個性豊かな５つの源泉が湧く湯の街



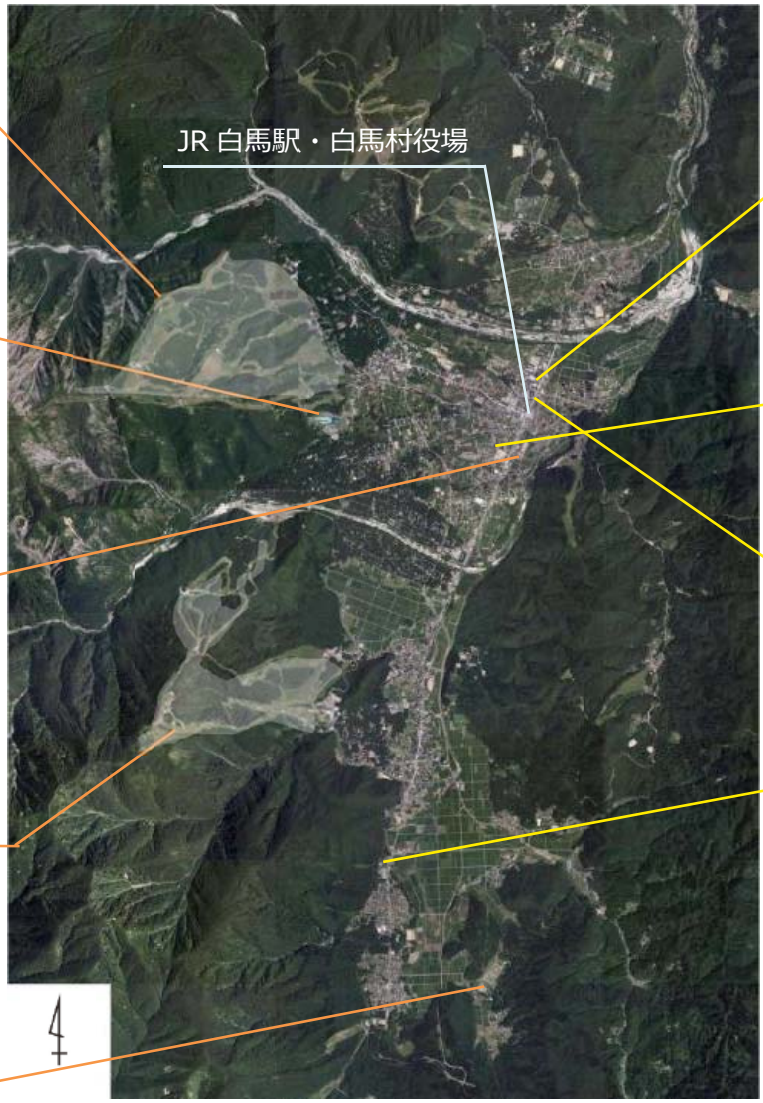
百名山：白馬岳、五竜岳



棚田百選：青鬼地区
（重要伝統的建造物群保存地区）



名水百選：姫川源流



【９． 村の遊び・イベント】





■アウトドア・アクテビティ

・登山・トレッキング
・マウンテンバイク
・スキー・スノーボード（バックカントリー）
・クロスカントリースキー
・パラグライダー
・ウォータージャンプ
・ラフティング・キャニオニング

■観光・スポーツイベント

・塩の道祭り
・開山祭（貞逸祭）
・白馬 Alps 花三昧
・白馬国際トレイルラン
（2011 年～ 参加者：約 1,700 名）
・白馬スノーハープクロスカントリー大会
（1998 年～ 参加者：約 2,500 名）
・アルプスあづみのセンチュリーライド
（2009 年～ 参加者：約 1,500 人）
・FIS サマーグランプリジャンプ大会（2001 年～）
・日本雪合戦選手権大会
・国体・インカレ・インターハイ・全日本選手権等各種スキー大会









【１０． まとめ】

・恵まれた自然環境

北アルプスの大自然に囲まれ、四季を感じながら伸び伸びと成長できる環境がある。
山と街が近いため、日常的に多彩なアクテビティを取り入れることができる。

・多様性

地元の人、移住者、定住外国人など、様々な人が暮らしている。
国内外からの観光客も多く、村の中でも異文化に多く触れられる。

・知名度・イメージ

国内外に「白馬」の名前が知られていて、選択する上でイメージが湧きやすい。
一度訪れると景観や環境に好印象を抱かれやすい。

・地域のつながり、安心感

震災においても地域の共助が発揮されたように、「村」ならではの「人のつながり」や「温かさ」がある。